

「エンドロール」

—二稿—

2025/8/15

さいの

〈人物表〉

山本 燈 やまもと あかり

(19)

地下アイドル「ジャムジャム」のメンバー

藤崎 夢香 ふじさき ゆめか

(20)

「ジャムジャム」の元メンバー

桐原 真衣 きりはら まい

(23)

「ジャムジャム」のリーダー

酒井 健吾 さかい けんご

(38)

「ジャムジャム」のマネージャー

大河原 進 おおがわら すずむ

(42)

映画監督

今川 元 いまがわ はじめ

(37)

大河原の助監督

堂島 翔子 どうじま しょうこ

(32)

フリーのライター

1. 映画館・シアター入り口（夜）

こぢんまりとしたミニシアター。上映中の立札。

2. 映画館・シアター内（夜）

客はまばら。

スクリーンを流れるエンドロール。席を立ち始めている客もちらほら。

客席の山本燈（19）、虚げな表情で見ている。

エンドロールを流れる「藤崎夢香」の文字。

燈、込み上げるものを我慢して、席を立つ。

3. 帰り道（夜）

燈、目頭を押さえながらスタスタと歩いている。

ライター・堂島翔子（32）、燈に歩み寄って、

堂島 「山本燈さん、だよね？」

燈、思わず立ち止まる。

堂島、名刺を渡して、燈をじっと見る。

堂島 「大河原監督のことで取材してます」

燈、動揺して立ち去ろうとする。

堂島 「（追いかけて）藤崎夢香さんと今、連絡って取れる？

事務所に聞いても分からないって言われて……」

燈 「知りません」

堂島、燈の手をパッと掴んで、

堂島 「……泣き寝入りさせたままで、いいの？」

燈 「……知りません」

燈、手を振り払い、ダッと一目散に駆け出す。

4. どこかの物陰（夜）

燈、立ち止まって息を整えている。

ふと、右手で握り潰していたものを開く。

映画のフライヤー。藤崎夢香（20）が映っている。

5. （回想）川辺の公園・吊り橋（昼）

白い水鳥の群れが青空を飛んでいく。

燈、吊り橋の上からその様子を見上げて、

燈 「すご……」

夢香、一眼レフで収めながら、

夢香 「でしょ」

水鳥の群れが川辺に降り立ち、優雅に歩き始める。

夢香、無心でシャッターを切り続ける。

夢香 「プリクラ撮るよりマシなオフじゃない？」

燈 「流石にそうだわ」

夢香 「芸能界の荒波を生き抜くには、こういう癒しがいるのよ」

燈 「夢香。うちら、自称芸能人だから」

夢香 「(トボけて) 分かんないよ。そのうち急に売れるかも」

燈 「え？」

と、夢香の方を向く。

夢香、燈にカメラを向け、シャッターを切る。

二人、笑い合う。

6.

（回想）都内ホテル・記者会見場（昼）

映画の制作発表会見の会場。

監督・大河原進（42）と出演者ら、報道陣の前に

並び、映画のタイトルや公開日が書かれた横断幕を

掲げている。大量のフラッシュ。

夢香、出演者らの列の端っこで、ぎこちない笑顔。

7.

（回想）レッスンスタジオ・内（昼）

こぢんまりとしたレッスンスタジオ。

真衣 「あ、夢香」

と、桐原真衣（23）ら、七人組アイドルグループ

・ジャムジャムのメンバー達、一台のスマホを囲ん

で、興奮気味に会見の動画を見ている。

真衣 「ほら今、映った」

と、スマホ画面の端に見切れている夢香の姿を指す。

一同、感嘆の声を上げ、盛り上がる。

マネージャー・酒井健吾（38）、スタジオにやつ

てきて手を叩き、

酒井 「よし、休憩終わるぞ。しばらく夢香は別スケジュールだ
けど、グループとしても踏ん張りどころだからな」
メンバー達「はい」

と、ダンスレッスンの準備を始める。
燈、壁に貼られた映画のポスターが目に入る。
学園ドラマらしく、制服姿で映っている出演者達。
主演陣の後ろに小さく、ちょこんと写っている夢香。
燈、意気込んで踊り始める。

8.

（回想）撮影スタジオ（昼）

教室のセット。撮影中の出演者とスタッフ陣。
カメラに映っているのは、制服姿の夢香。
男性の共演者に向かって、

夢香 「エミの気持ちが分かんないの？ あの時、本当はなんて
言って欲しかったか。エミが、本当はあの時……」
と、セリフに詰まって、

今川 「カット」

と、助監督・今川元（37）。

夢香 「（周囲に頭を下げて）すいません、間違えました」
今川 「夢香ちゃん、もうちょっと頑張ろうか」
夢香 「……はい」

監督・大河原進（42）、その様子を見ている。

9.

（回想）ライブハウス・楽屋（夜）

ジャムジャムのメンバー達、ライブに向けて忙しな
くメイクや衣装の準備をしている。

夢香 「ごめん、遅くなった」
と、ドアを開けて入ってくる。

真衣 「お疲れ、大女優」
と、メンバー達、夢香に駆け寄って、労いの言葉。
夢香、笑顔で応えつつ、急いで準備に取り掛かる。
夢香の裾からわずか、手首が腫れているのが見える。
燈、それに気づいて、ハッとす。

夢香 「ん？」

と、燈の視線に気づく。

化粧道具を準備している夢香の手元、袖で隠れて腫れは見えない。

燈 「（繕うように笑って）お疲れ」

夢香 「ありがと」

と、笑顔で返す。

10.

（回想）撮影スタジオ（昼）

大河原、スタッフの一人の頬を執拗にビンタ。

夢香、駆け寄って、

夢香 「あの、今は本当に私の間違いで」

今川 「いやいや夢香ちゃんにあれば出来ないから」

夢香、咄嗟に手首の腫れを抑える。

大河原 「次で決めよう。次で決めたらいいんだから」

一同、口々に返事する。

夢香 「……はい」

11.

（回想）撮影スタジオ・楽屋（夜）

夢香 「（廊下に向かって）……お疲れ様でした」

夢香、楽屋に入るなり、力が抜けたように座り込む。

夢香、静かに涙を流す。

スマホに通知。燈からのメッセージ。

12.

（回想）川辺の公園・吊り橋（夕方）

夢香、吊り橋の上で水鳥を一眼レフに収めている。

燈、吊り橋の向こうからやってきて、

燈 「芸能界で荒んだ心は癒えましたか？」

夢香 「（あっけらかんと）もちろん」

燈、真剣な表情になって、

燈 「手首、見せて」

夢香、燈を一瞥してから、服の袖をそっと捲る。

腫れや、小さな内出血。

夢香、その痛々しさに思わず息を呑む。

燈 「誰に、やられたの？」

夢香 「（しれっと）……監督」

燈 「マジ？」

夢香 「大丈夫。ちょっとコッソンって、デコピンみたいな感じ」

燈 と、淡々と話す。燈、その口ぶりに語気を強め、
「デコピンじゃないでしょ？ 酒井さんに言った？」

夢香 「言っていない」

燈 「言ってあげようか？」

夢香 「（キッパリと）それはやめて。お願い」

燈 「なんで？」

夢香、気が抜けたように、ヘラヘラと語り出す。

夢香 「私さ、そろそろこの仕事辞めようと思ってんだ」

燈 「……は？」

夢香 「燈も一生これ続けるわけじゃないじゃん？ 終わり方は
考えてるでしょ」

燈 「それは、そうだけど」

夢香、笑みを浮かべて、

夢香 「映画の話聞いた時、これで最後の思い出にしたらちょうど
良いかなって思ったの。もうすぐ撮影も終わるし、酒
井さんには黙っててほしい」

燈 「本当に、それでいいの？」

夢香 「（頷いて）めちゃくちゃいい映画なんだよ。端役だけど
さ、子供とか出来たら、お母さん出てる映画だよってエ
ンドロール見せて自慢したいんだ」

と、明るく言い放つ。

夢香 「その時に変な噂とか出てきたら嫌じゃん。私は大丈夫だ
からさ、約束してくれる？」

燈、思わず、

燈 「……分かった」

13.

（回想）レッスンスタジオ・入り口（夜）

燈、帰り支度を済ませた格好で、スタジオの入り口
ドアから出てくる。スマホに着信。

14.

（回想）ホテル・エレベーターの中（夜）

夢香、スマホ片手に電話していて、
夢香 「そう、パーティやるんだって」

15.

（回想）帰り道（夜）

燈、夜道を歩きながら笑顔で電話していて、
燈 「パーティ？」

夢香の声「仲良い人たちで、近くのホテルで打ち上げするらしい」

燈 「なんか、大人じゃん」

夢香の声「大人じゃないよ」

16.

（回想）ホテル・廊下（夜）

夢香、エレベーターから出てくる。

夢香 「こういうのを断れるのが大人だよ」

メモ片手に一室の前で立ち止まり、ベルを鳴らす。
ガチャッと開くドア。

17.

（回想）ライブハウス・楽屋（夜）

酒井、燈と二人で話していて、

燈 「……いえ、特には何も」

酒井 「そっか。燈なら何か知ってないかなと思ってさ」

燈 「ごめんなさい」

酒井 「いや、ありがとな」

と、立ち去る。

燈のスマホ画面。夢香への「パーティどうだった？」
のメッセージや、その後も何件ものメッセージと発
信に、既読が付いていない。

18.

（回想）ライブハウス・ステージ上（夜）

開演中のステージ。客はまばら。

真衣 「……夢香が、今日をもってグループを卒業することにな
りました」

残念がる観客の声。

燈、マイクを握り締める。

真衣 「しばらくお休みしてましたが、体調が戻らず、今日のラ

イブにも来ていません。最後に一人ずつ、夢香にメッ
セージを……」

燈、割って入って、

燈 「あの、夢香の映画、みんな絶対に見てください。良い映
画だって言ってたので、絶対ですよ」

19.

堂島の自宅・キッチン（夜）

堂島、換気扇の下でタバコを蒸している。

ポケットのスマホが振動。

手に取ると、登録していない番号から。

堂島、電話に出て、

堂島 「はい」

燈の声 「……あの、堂島さん、ですか」

堂島、声の主にハッと気づく。

20.

燈の自宅（夜）

こぢんまりとした六畳のワンルーム。暗い室内。

燈、スマホ片手にベッドの上に座り込んでいる。

枕元には堂島の名刺。

燈

「夢香に、会いたいんです。手伝ってくれませんか？」

21.

堂島の自宅・キッチン（夜）

堂島、急いでタバコを消し、キッチンを後にする。

（おわり）